

2025 ピースアクションinナガサキ 報告

8月6日・7日・8日に、園山全域理事と組合員活動グループ西村が
ピースアクションinナガサキに参加しましたのでご報告いたします。



8月6日(水)

千羽鶴を寄贈しました

原爆落下中心地碑へお預かりして
千羽鶴を寄贈し、原爆犠牲者の方へ
の哀悼の祈りを捧げました。

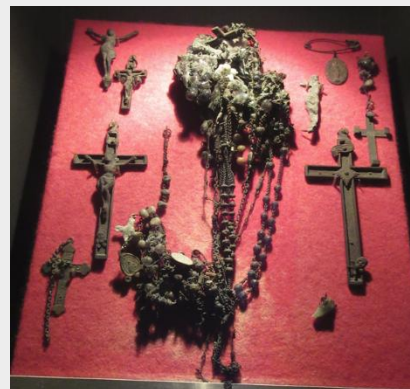


長崎原爆資料館見学

被爆の惨状や原爆投下までの経
過、核兵器開発の歴史、世界の
平和希求の動きなどを学びまし
た。

永遠の11時2分

爆風で損傷し、時計の針
は爆発の11時2分を
示しています。



爆心地から600mの民家から発見された 溶けたロザリオ

すさまじい熱戦と強烈な炎によりガラス製
のロザリオはアメのように溶けています。



手の骨とガラス

人間の手の骨とガラスが高熱
のためくっついていました。

爆心地より700m
の岩川町で被爆し
た堤郷子さん(当時
14歳)の遺品
弁当箱のお米はその
後の火災で炭化して
います。





一本柱鳥居

爆心地から南方へ 800mにあったこの鳥居は爆風にとり一方の柱をもぎ取られてしまいました。



被爆クスノキ

山王神社の境内に立つクスノキ。樹齢400～500年と言われ、被爆後も奇跡的に生き残りました。

8月7日(木)

旧城山国民学校校舎 原爆資料館

被害にあった校舎の一部をそのまま資料館として保存しています。資料館では城山小学校被爆校舎平和発信協議会会長の山口政則さん（写真下）に当時の様子や現在の平和の取り組みについてご説明いただきました。



教職員 31 人のうち 28 人が亡くなり、当時校舎の一部を使用していた三菱重化学工業の所員や動員学徒らも約 120 人中 100 人余りが亡くなりました。また、在籍していた 1500 人の児童のうち、自宅で亡くなったのは 1400 人余り、そのうち名前が判明しているのは 861 名で、未だに名前が分かっていない子どもたちが大勢いることを。教えていただきました。



原爆投下後の運動場では 10 月になっても引き取り手がない茶毘に付した骨がそのままになっていました。



城山小学校では月 1 回平和祈念式を開催したり、海外の子どもたちとの平和交流を続けています。

山里小学校原爆資料室

被爆当時、在校舎者 32 人のうち、校長以下職員 26 人、用務員 2 人が死亡、児童 1581 人のうち約 1300 人が自宅で亡くなりました。被爆当時の写真パネル、溶けたガラス瓶など展示されています。

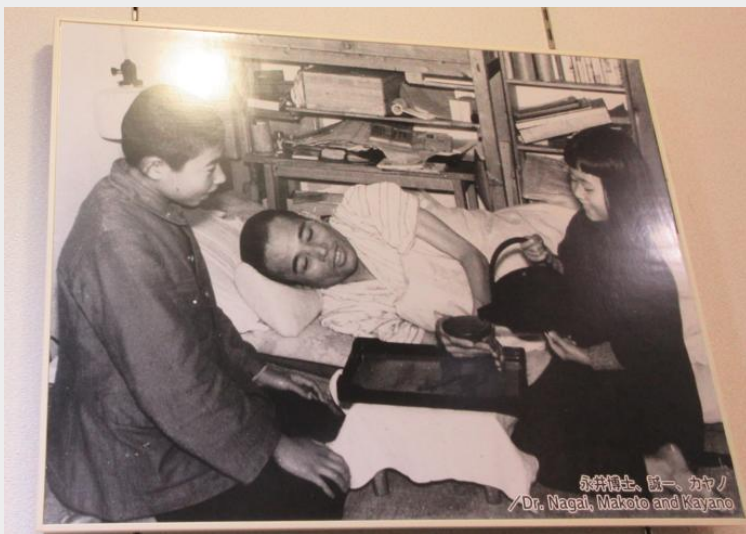


山里小学校の崖には防空壕が掘られ避難場所になっていました。被爆当時、この壕の内外で教職員や住民が亡くなっていました。



長崎市永井隆記念館

当時の長崎医科大学の医学博士であり原爆投下時の救援活動を記した「長崎の鐘」の著者としても有名な永井隆の生涯と功績を展示しています。



白血病が悪化し寝たきりになった後も、「長崎の鐘」「いと子よ」など多くの著作を通じて、人々に生きる希望と勇気を与え、平和の大切さを訴え続けました。



記念館の隣には、カトリック信者たちが隆のために建てた家「如己堂」があり、43歳で亡くなるまで子どもたちと暮らしました。

ピースアクション in ナガサキ企画

◆ミライの平和活動

テクノロジーを活用した戦争の記憶の伝承や、実際に被爆者の想いを語り手となり、伝える若い世代の活躍を学びました。グループ討議では、他の生協の参加者と平和について意見を交わしました。



ピースアクション in ナガサキ企画

◆被爆の証言(平和の紙芝居)

証言者 三田村静子さん

3歳で被爆し家族を失い、4度のがんを患い、最愛の娘も失った経験を経て、「今こそ語らないと。」との思いで、自らの被爆体験と紙芝居を使った他の被爆者の原爆体験をお話下さいました。



ピースアクション in ナガサキ企画

◆生協平和のまち歩き

浦上天主堂まで巡るコース

平和公園から浦上天主堂までの道のりを歩き、被爆遺構を散策しました。



8月9日(金)

ピースアクション in ナガサキ企画

被爆の証言

証言者 八木道子さん

爆風・熱線・放射線による甚大な被害を受け、多くの子どもたちが亡くなり、今も放射能により苦しんでいる人々が大勢いることをお話いただきました。浦上川は死体で埋め尽くされ、人間いかだの光景が広がっていたことや、当時6歳の八木さんが自宅二階で、閃光と強烈な爆音と体が吹き飛ばされた経験、城山小学校の亡くなった児童500名以上の名前が今も分からないことなどをお話いただき、「核兵器だけは絶対に使ってはならない!」と訴えられました。



ピースアクション in ナガサキ企画

◆虹のひろば

全国から生協組合員・職員が集まり、被爆の証言や高校生平和大使・子ども平和会議アピール文発表、中学校吹奏楽部の演奏など催され、核兵器廃絶と平和への想いを全員で共有しました。

虹のひろばの様子は見逃し配信しています。👉

<https://peace.jccu.coop/hiroshimanagasaki>

オープニング

雲仙市立小浜中学校吹奏楽部



講演 斎藤とも子さん

福島での原発事故による放射線被害について、被爆者の皆さんが、心を痛め、心を寄せていたエピソードを話され、「核と人間は共存できない」と訴えられました。



高校生平和大使



子ども平和会議

10代の若い世代の皆さんによる、各地の仲間同士での平和の取り組み学習や交流の様子について報告がありました。



◆被爆の証言

証言者 長崎原爆被災者協議会会長 田中重光さん

被爆後のご家族の苦労、健康被害、姪っ子さんの死など、たとえ生き残ったとしても、戦争により家族の日常が奪われた方々が大量にいることを伝えていただきました。「原爆は人間として生きること死ぬことも拒否する」と話され、「核廃絶と人間の尊厳が尊重される世の中を目指してほしい。」と訴えられました。



◆被爆の証言

証言者 八幡照子さん

8歳の時に広島で被爆した経験をお話頂きました。原爆投下から16年後、友人が「あの青い空をシンデレラの靴で踊りたい!」という言葉を残して25歳の若さで亡くなっていったエピソードを話され、「今ある命を大切に、自分のできること、平和のために出来ることをそれぞれしてほしい。」と訴えられました。



2025 ピースアクション in ナガサキ
虹のひろばの会場にて「わたしの平和宣言」を記入しました。



2025 ピースアクション in ナガサキツアーに参加して 今 伝えたいこと



全域理事 園山麻美

昨年秋の被団協のノーベル平和賞受賞や今年が被爆・戦後80年の節目である事から平和について改めて考える機会が増えている中、ピースアクション in ナガサキに参加出来た事はとても貴重な経験でした。

1945年8月9日の11時01分まで当たり前にあった生活が1発の原子爆弾により、愛する人や大切な物を奪い、たくさんの苦しみや悲しみを生み出してしまった事実を私達は忘れてはいけません。

戦争を経験した方々がいなくなる時代はいつか必ずやって来ます。

戦争を知らない世代の私達に出来る事は何でしょうか？

長崎の街の至る所で「長崎を最後の被爆地に」と言う文字を眼にしました。

悲惨な出来事を繰り返さないために1人1人が平和を願い一歩踏み出してみませんか。まずは身近な人と平和について話をしてみてください。

1人1人の力は微力ですが無力ではありません。争いのない安心して過ごせる平和な世界の実現のために一緒に考えていきましょう。

